

企業倫理に関する基本方針

株式会社 タ ウ

企業倫理に関する基本方針

株式会社タウの基本方針は、会社の営業活動に適用されるすべての法律を厳格に遵守するということである。

さらに、我々の方針は、すべての法律の遵守にとどまるだけでなく、例え法律の許す範囲であっても、タウは最も清廉な行動をとるということである。

現在当社は日本のみならず、オーストラリア、ニュージーランド、香港と取引を行っており、さらに事業の発展にともない上記以外の諸外国への商圏の拡大を計画している。

その場合、それぞれの地域の習慣や伝統が、国によって異なるということをよく認識している。

しかし、文化や伝統が異なるいかなる社会であっても、誠実さが批判を受けることはない。少しでも不誠実なところがあれば、ただちに会社の士気を低下させ、同時に多くの批判を招来するであろう。

『誠実であれ。何時いかなる場合でも誠実であれ』

これは当社の不変の憲法である。

『タウは良心的な取引をしている』という確固たる評判は、それ自体極めて貴重な会社の資産である。

余りにも功名心の強い社員は、成果を得さえすれば、どのような方法でその成果が得られようと構わない、という誤った認識を持つかもしれない。

このような社員は、自分のすべての行為を上司に語らず、すべての業務内容を正確に帳簿や記録にとどめず、誤った経理処理をすることが最善であると考えられるかもしれない。

しかしながら、これはすべての面で間違っている。

私は諸君がどのようにして成果を得るかに関心を持つ。

会社は、現在も将来もその全組織を通じて、清廉な行動の基準に合致することを期待する。

私は、法律に違反して、あるいは非良心的な取引という代償を払って、成果を上げようとする社員を容認することはできない。

同じ理由で、会社はこの原則を犠牲にしなければ得られないチャンスならば、それを放棄する社員を支持するし、また諸君も彼等のその姿勢を支持していただきたい。

同様に重要なことは、会社は諸君に公正さと、会計規則の励行を期待する。

私は、例えそれが会社をかばうためという理由であっても、同僚や部下をかばうためであっても、また自分を良く見せかけるためであっても、いかなる理由にせよ、諸君が嘘をつくことを厳しく戒める。

社員が、上司にすべての事実と情報を報告しなかったために起こる、多くの弊害の一つは、その組織のメンバーが、あるいは同僚や部下が、会社の方針や規則が自分の都合の悪いと

きは無視されても良いと思うことである。

これは組織の腐敗と、士気喪失をもたらすことになる。

すなわち、会社の経営システムは、正しい報告、正しい会計記録、正しい経理処理、正しい予算の提案、及び事業計画に対する正しい経済性の評価がなければ、的確に機能しないことを認識すべきである。

『すべての取引は、正確に記録や帳簿に反映しなければならない』ということが当社の基本方針であり、この方針は永久に変わることはない。

企業倫理に関する基本方針は、会社のあらゆる規則や規定に優先することをここに明記する。